

地球学

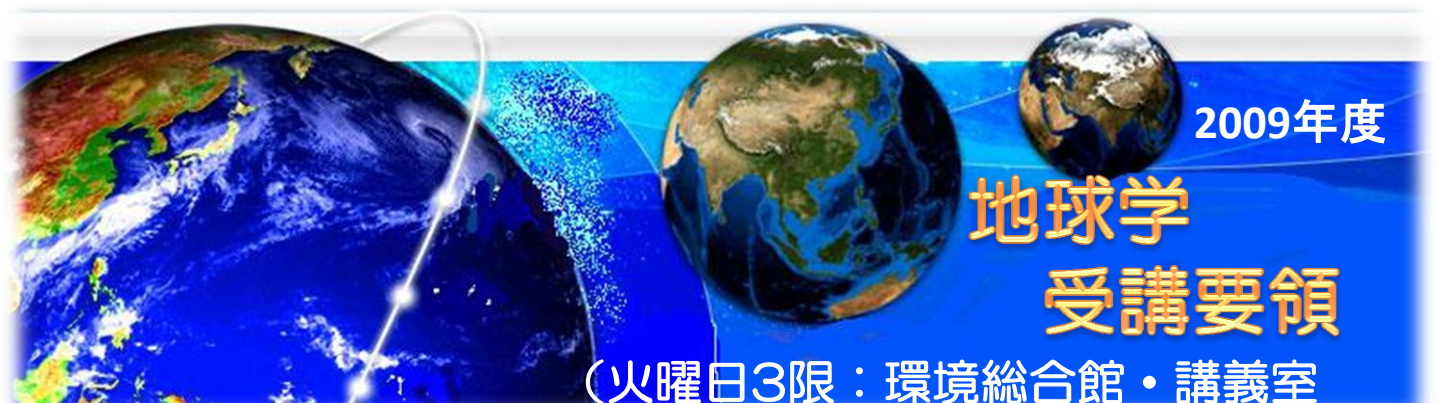
2009年度・講義日程（案）＜火曜日3限： 環境総合館・講義室3＞

第1学期（地球学1）

- 4/14：檜山哲哉
ガイダンス
- 21：野澤悟徳
地球周辺大気・プラズマ環境の変動
- 28：野澤悟徳
地球周辺大気・プラズマ環境の変動
- 5/12：神沢 博
対流圏-成層圏過程
- 19：神沢 博
対流圏-成層圏過程
- 26：森本昭彦
海洋循環と物質循環
- 6/ 2：森本昭彦
海洋循環と物質循環
- 9：檜山哲哉
陸域植生と水循環・物質循環
- 16：檜山哲哉
陸域植生と水循環・物質循環
- 23：中塚 武
樹木年輪が語る気候の周期的変動
- 30：中塚 武
樹木年輪が語る気候の周期的変動
- 7/ 7：福島和彦
森林の炭素循環
- 14：福島和彦
森林の炭素循環
- 21：地球学1の講師全員
まとめと議論

第2学期（地球学2）

- 10/ 6：長濱智生
太陽-地球系と地球大気環境変動
- 13：長濱智生
太陽-地球系と地球大気環境変動
- 20：吉田茂生
地球内部の対流と気候変動
- 27：吉田茂生
地球内部の対流と気候変動
- 11/10：井龍康文
生物骨格を用いた古環境変動の解明
- 17：井龍康文
生物骨格を用いた古環境変動の解明
- 24：中川弥智子
森林と気候変動
- 12/ 1：中川弥智子
森林と気候変動
- 8：渡邊誠一郎
太陽-地球-生命圏相互作用系のモデリング
- 15：渡邊誠一郎
太陽-地球-生命圏相互作用系のモデリング
- 22：安成哲三
氷河時代における気候変化
- 1/12：安成哲三
氷河時代における気候変化
- 19：地球学2の講師全員
まとめと議論



2009年度

地球学 受講要領

(火曜日3限：環境総合館・講義室)

目的とねらい

地球科学の研究領域の細分化により、近年、自分の専門分野以外の知識を習得する機会が少なくなっている。地球科学における個々の専門領域の研究は、太陽―地球系の成り立ちを理解した上で、その一部として理解し、進めていく必要がある。そこで「地球学1」と「地球学2」では、地球科学及びその関連分野を専門としている研究者が講師となり、太陽―地球系を皮切りに個々の専門領域（テーマ）についてオムニバス方式で講義を行う。本講義は、受講者が自分の専門領域以外のテーマについても興味を抱き、自ら進める研究の位置づけと意義を考えるための”きっかけ”を提供するものである。

講義の概要

「地球学1」では、太陽―地球系におけるエネルギー流入過程、超高層大気 of 諸現象、地球表層における水・物質循環過程と、それらの現在の動態を解説する。「地球学2」では、過去数十年から数百万年に至る古環境変動を意識した内容や、大循環モデルやシンプルモデルを用いた地球システムの動的な特性などについても概説する。そのため、「地球学1」と「地球学2」を続けて履修することを望む。

講義の進め方

- 6名の異なる講師が、2回ずつ講義する。
- 各講師とも、1回目の講義でそれぞれのテーマの基礎について解説し、2回目の講義で「気温の変化や気候変化」に焦点を絞った各テーマにおける応用研究例について解説していただく。
- 講義開始から約75分間を講師による解説とし、残りの約15分間を質疑応答の時間とする。
- ただし、講義中にわからない点があった場合にも、適宜質問を受け付ける。
- 口頭で質問できなかった場合には、各講師1回目の講義終了後に限り、授業アシスタント(TA)宛にメールで質問を送付しても良い。メールによる質問の送付期限は、各講師1回目の講義後の翌日（水曜日）の17:00までとする。

評価（出席とレポート）について（地球学1の場合）

- 毎回、出席表を回覧する。そこに受講生が学生番号と氏名を記入することで、出席点とする。
- 期末レポートを、7月21日にTAに提出する。7月14日に期末レポートの課題を再提示する。
- 出席点と期末レポートの採点結果を総合的に評価し、成績とする。

参考書について

以下の書籍を参考書として使用する。

渡邊誠一郎・檜山哲哉・安成哲三 編（2008）：『新しい地球学 ―太陽―地球―生命圏相互作用系の変動学―』。名古屋大学出版会、341pp, 4,800円。